

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390300014		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム みすず		
所在地	岡山県津山市瓜生原326-1		
自己評価作成日	令和5年11月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和5年12月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

食事については現在配食サービスにて提供しているため、栄養のバランスのとれた食事を提供する事ができています。誕生日や外出ドライブ時には配食でなくお弁当やお好きな食べ物を作成するなど、ニーズに臨機応変に提供出来ています。看護師や主治医との連携は24時間連絡体制がとれており、安心、安全な生活が送れるような体制である。生活の中でできる限り、個々のリズムに合わせ穏やかな時間の流れを感じることができるグループホーム作りを努めています。個別でのドライブにも力をいれて行っています。本人様のペースで自分のなじみがある場所や季節に応じてドライブを楽しんでいただいています。本人様の状態に応じて掃除・洗濯・片付けなど場面に応じた役割を持っていただいています。介護福祉士の取得割合も高く全体の60%以上配置できています。職員の個別性を大切にし、その力を引き出しながら、管理者・職員が一つになって入居者に寄り添ったケアの実施に努めています

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

社会福祉法人の理念「安心できる居場所づくり、支えあう関係づくり、チャレンジできるステージづくりをすすめて、共生社会の実現を目指します」の下、入居者の笑顔、職員の思いやりが溢れる穏やかな時間の流れを感じることができるグループホームです。管理者は職員の個性とそれぞれの持つ力を引き出しながら、管理者・職員が一つのチームとなり入居者に寄り添ったケアに努めている様子が窺えます。職員の提案で変更した食事の提供は介護にかかわる時間が増え、より職員の心の余裕に繋がっている姿が伺えました。職員教育、研修、雇用体制の充実、又職員動念管理のAI化など法人組織の利点を活かしながら、ケアの質の向上に取り組んでいる様子が窺えます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に付くところに掲示し、いつでも見られるようにしている。理念は職員会議録に掲載し行動指針や目標を勤務表に入れて月の目標として取り組めるようにしています。	運営母体である社会福祉法人の大きな理念を基本とし、職務行動指針を作成して、実践と共有に努めています。	大きな理念を基本とし、よりかみ砕いた形にしグループホーム独自の理念 目標を職員と共に作成し、実践につなげていかれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦の為、地域交流はほとんど出来ていない。	コロナ渦で出来る範囲で敷地内の法人施設との交流が行われています。秋祭りのみこしが来てくれるなど制限のある中での地域交流への取り組みに努力がみられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は現状出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年6月頃より地域推進会議が再開出来ています。ご家族は比較的たくさんの方が参加出来ているが、地域の方が参加が出来ていない状況です。現在 参加可能な方を探しています。	2ヶ月1回定期的に開催しています。行政・多くの家族の方も参加もあり意見交換が出来ており、地域の方が参加できていない点を課題として取り組んでいます。	行政の方とも相談しながら 色々な課題解決 情報交流の場となる運営推進会議になるように期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進会議に参加していただきそこで意見交換を行っています。それ以外でも何かあればつど連絡を行い協力関係に取り組んでいます。	市担当者の運営推進会議への積極的な参加があり、問題解決の相談にも真摯に対応してもらっており良好な関係づくりが出来ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の尊厳と主体性を尊重し、拘束を安易に正当化することなく、職員一人一人が理解を持ち 身体拘束しないケアに努めています。	定期的な研修会 入社時の研修など身体拘束に関する研修に努めており、身体拘束に関する認識も職員間でも共有ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に関する方針を作成し、身体拘束適正化委員会を設けて、身体拘束・虐待の研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	場面に応じてご家族様へ制度の説明を行っています。管理者だけでなく状況に応じて職員へも日常生活自立支援事業や成年後見制度について学びの場を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時に説明し、同意を得ています。利用者様やご家族が不安な点や疑問点もその場で理解や納得が出来るように努めています。内容に変更などあれば速やかに説明し、理解・納得ののち同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様・ご家族の思いを第一に考え、ニーズに応えられるように努めています。また、気付いた点や感じた事を言い易い環境作りをしています。	入居者から食事についての意見が多く出るようです。運営推進会議で多くの家族参加があり、意見がよく出ているようです。LINEを活用し要望を聞く体制に努め反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議として意見や提案を聞く機会を定期的にもうけています。また、随時気づいた点など早急に対応が必要な場面は随時意見を聞いて反映しています。また、提案時に難しい判断場面であれば管理者同士の報告・意見交換も随時行い、管理者から上司へ提案内容報告しています。	職員会議で話し合い対応するなど随時意見を運営に反映するよう努めています。食事提供に関して職員からの意見を採用し提供体制を変更するなどサービスの向上を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者または本人より上司へ給与や勤務について相談は行っている。働きやすい職場環境や条件の整備に努め職員各自が向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ネットを活用し、自分が学びたいスキルを優先して個別で学ぶようにしている。職員へ資料を配付し学んで頂くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、出来ていなかったが、徐々に相互訪問等の機会を設け、勉強会や情報の共有などの活動を行い、サービスの質を向上に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業書に不安や要望、困っていることを聞きながら信頼関係作りに努めている。 施設見学をして頂いた際や申込みをしていただいた際など、できる限り早い段階で困っていることやご要望に耳を傾け、安心して利用出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なことや要望を早急に把握し、ご家族の意向を伺いながらグループホームではどのような対応ができるか サービス導入前に話の場を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今現在の困っていること 必要としている支援を見極め適切なサービスの選択肢を提供出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや不安、喜びなどを知り共有できるように努め 共に支え合う関係作りに努めています。人生の大先輩に教えて頂くことも多く 時に励まして下さり 感謝を忘れることなく共に支え合い暮らしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の気持ちや現在の様子を伝えたり、ご家族様の想いや様子を聞く事で情報を共有し共に支えていく関係が築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで住み慣れた地域や自宅周辺の馴染みの場所へ出掛けています。馴染みの方等の面会もコロナの状況で難しい場面もあるが、関係性が途切れないように工夫し努めています。	自宅を見に行ったり その時々で入居者にあった場所への外出援助や関係構築に努めています。以前在籍していた職員が、子供を連れて面会に来たりするなど、新たな生まれた馴染みの関係も生まれ安心と信頼にも繋がっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく会話できるように席のレイアウトを工夫しています。またレクレーションの内容に応じて場所をかえ 職員も間に入ることで円滑なコミュニケーションが取れるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の相談等があればその都度対応、ご支援に努めます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴や観察を常に行いお一人お一人の思いの把握に努めています。困難な場合は情報を共有し、検討しています。	入居者の意向を確認し、家族の意向も踏まえ実践に繋げています。入居者の思いや意向は、それぞれ担当職員に報告して情報を共有しながら、支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	細やかな気付きの記録を行うと共に、継続的にご家族からの聞き取りを行う事で、ご本人様のこれまでの生活の理解と把握に努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を継続し、情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	往診時、訪問看護来所時に、生活課題の解決に向け情報共有をしています。話し合いをした上で現状に適した介護計画へ反映している。	日々の申し送り時にカンファレンスを行い、職員とケアマネージャーでプラン原案を作成し、職員会議で話し合い確認や変更、モニタリングを行って、体調管理も含めその人らしい暮らしのケアプランの作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の詳細な記録と周知を行い職員間での情報共有が出来る様に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれず状況の変化を把握した上で 今必要なサービスは何か多機能に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用することはできていませんが、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで一人一人の健康状態を見ています。体調変化の早期発見に努め、変化があれば主治医へすみやかに連絡をし適切な医療を受けられるように支援している。	連携している主治医は24時間体制で、往診と緊急時の対応が可能です。他の医療機関への受診希望は、家族の協力も得ながら行っています。訪問看護サービス 訪問歯科と多様な医療連携に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護で見て頂く。一週間の状態報告をし、看護師の指示及び、主治医との連携を図り受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、情報提供書を作成し、病院へ情報共有を行っている。退院時は病院から情報を頂いたりカンファレンスを行い 現状を職員全員が情報を共有し退院後の支援に対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時事前にご家族様の要望をお聞きしている。状態変化がある際にはその都度 管理者や主治医から要望の確認 気持ちの変化などを改めて行うことで、方針を共有し支援を行っている。	以前看取りを経験しています。看取りケアを行うにあたり、家族とも連絡を密に取り合いながら、重度化、終末期に向けた対応に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあるが急変時の対応の研修は現在まで行えていない。今後行う予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定火災訓練を実施した。避難訓練に参加出来ない職員にもマニュアルや反省などの情報共有を行った。	年2回 法人全体と施設単独でも避難訓練を行っています。ハザードマップも参考にしながら、災害人によって安全な避難経路、場所など話し合い検討しています。	想定外の災害にも備えて、準備や訓練を行い、法人全体と地域も含め、助け合える関係ができることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには声の大きさや話し方に気をつけてプライバシーを損ねないように努めています。	認知症症状に合わせた 名前の呼び方や、声掛けなど、個々の心情を汲み取り入居者が安心感を得られるよう言葉にも気お付けています。会話、話し方に工夫をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係の構築に努め 安心して自分の思いや希望を表せるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の一人一人のペースや過ごし方を大切に、1日をホールで穏やかにのんびりしたい または活発に過ごしたい または自分のお部屋でくつろぎたいなど希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	レクリエーションなどでお化粧したりマニキュアを塗ったりして頂きおしゃれ出来る支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業務委託になり現在は食事献立は決まっているが、特別な日は一緒に食事作りをしたり お弁当を購入したりしています。机やお膳を拭いていただき片付けの手伝いをしています。食事が楽しめるように音楽をかけたり食事メニューをお伝えしたりして楽しんでいただいています。	職員からの提案もあり提供方法を変更し、高齢者の咀嚼機能も考えられた食べやすく、栄養面も考慮された食事でミキサー食や他に行事等の特別食も提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの計算したバランスの良い食事が提供出来ています。食事摂取量の観察と体重の増減に気をつけながら主治医の指示や助言をもとに個々に合った食事量で提供し水分量を確保出来る様にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けなどで口腔内の清潔に努めています。義歯は週に一度ポリドントを施行しています。異常があれば歯科往診に来ていただき治療、指導をいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中 夜間ともに一人一人の排泄パターン・習慣を把握し、声掛け 誘導を行っています。	個々に合わせた対応でそれぞれの習慣やその日の体調など見極め、排泄用品等使用しながら個々に応じた排泄支援に努めています。メーカーによる勉強会を開催し オムツやパットについての研修も行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操をして身体を動かす時間を設けています。個々の適切な水分摂取量に注意し摂取をして頂いています。またバランスの良い食事を提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日のご利用者様の体調に合わせて無理のない入浴が出来るように支援しています。	重度の方も入浴が出来るよう、リフト浴も設置されています。入居者の状態 体調 入浴時間(午後)個別入浴対応に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や思いや状況を尊重し、安心して過ごして頂けるよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備、声掛け、飲み残しがないか確認し、ご利用者様が正しく服用出来る様手伝います。薬の変更内容や副作用の注意点などは主治医よりご指導あり、職員へ情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活に必要な介助だけでなく、ご本人が自分で出来る様な支援やメンタルケアを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時期にはドライブ外出にお話し、希望があれば、その場へお連れするようになっています。天気が良ければ外で昼食を摂ったりして気分転換や外出支援をしています。	ドライブに出掛けたり、庭に出て季節の花を見たり、散歩するなど、入居者個々に、気分転換や外食など、楽しむことができる外出支援に努めていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、外食や買い物が出来ていません。 キッチンカーが敷地内に来てくれた際にはお買い物のお手伝いを手伝ってくれました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話に出て頂いたり、LINE電話を活用しビデオ通話ができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所が分かるように大きな字で張り紙をしています。トイレの使用中の有無に関わらず、扉を開けっ放しにならない様配慮しています。混乱を招く物撤去や目隠しなどで工夫している。	木のぬくもりが感じられる、落ち着いた雰囲気でも多く開放感のある空間になっています。、ホールや廊下には、行事等の思い出の写真や、皆で作成した工作が飾られており、入居者の生活感が感じられるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話好きなご利用者様同士、性格に応じて和やかに楽しくお話しできる様にテーブルの席など配慮し配置を考えています。 パズルや塗り絵がお好きな方は本人の希望や気分に応じていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を使用したり、ご家族の写真や若い時の写真を置いたり、可能な限り、自宅での過ごしていた様な空間作りをし居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には家族の写真を飾ったり個々の居室作りがされています。ベッドは備え付けですが、希望に応じて畳で寝ることができるような対応もされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札や分かりやすい目印を付け、自走できる方は部屋まで自走していただき一人一人にあった声掛け 見守り 付き添いを行っています。		